2023年12月3日

アドベント第1週礼拝説教要約

神に選ばれたマリア

（ルカ1・26～38）

一、神に選ばれたマリア

マリアが特別に選ばれた女性であることは、たしかです。26節に、こうあるからです。**〈さて、その六か月目に、御使いガブリエルが神から遣わされて、ガリラヤのナザレという町の一人の処女のところに来た。〉**と。**〈一人の処女〉**とは、どんな女性だったのでしょうか。27節です。**〈この処女は、ダビデの家系のヨセフという人のいいなずけで、名をマリアといった。〉**と。神からの使命を授かり、遣わされた御使いガブリエルが、マリアのところに来ると、語りました。28節です。**〈御使いは入って来ると、マリアに言った。「おめでとう、恵まれた方。主があなたとともにおられます。」〉**とあります。ここで御使いが語ったことばである**〈おめでとう〉**ですが、元のことばは「喜びなさい」です。すなわち、神の側から見るなら、マリアの身に起ころうとしていることは――もちろんマリアが受諾すればのことですが――、「喜びなさい」です。また**〈恵まれた方〉**は、「すでに恵みを授けられた方よ」の意味です。その先を見てまいります。**〈主があなたとともにおられます。〉**と、御使いは語りました。これは主が選ばれた器に声をかけられる際のことばです。それが特別なことばであるのは、マリアにはすぐに分かったと思われます。と言いますのは、29節に書かれているマリアの様子です。**〈しかし、マリアはこのことばにひどく戸惑って、これはいったい何のあいさつかと考え込んだ。〉**と。

二、私共も選ばれている

御使いとマリアとの会話は、30節以降も続いています。結果、マリアは自分への召しを受け入れました。

38節に記されているマリアのことばは、私共の心を打ちます。**〈マリアは言った。「ご覧ください。私は主のはしためです。どうぞ、あなたのおことばどおり、この身になりますように。」すると、御使いは彼女から去って行った。〉**です。こうして私共の多くは、「マリアはすばらしい女性だ。マリアに見倣おう」となるわけです。

ですが今回、私は思いました。「ここに書かれている話をマリア事で済ませてしまってはならない」と。たしかにマリアはすばらしい女性でした。男であれ、女であれ、マリアに見倣うのは大切です。ですが、私共がマリアと同じようになることはできませんし、なる必要もありません。実は、私たちの一人ひとりが「マリア」なのです。私たちは、マリアとはまったく異なる働きをする、掛け替えのない一人びとりなのです。そして、知ってください。マリアはたしかに神に選ばれました。が、ここにいる皆さまも、そして私も「選ばれた器」なのです。聖書は語っています。**〈エペソ1・4すなわち神は、世界の基が据えられる前から、この方にあって私たちを選び、御前に聖なる、傷のない者にしようとされたのです。〉**と。皆さまは、私は、キリストにあって神に選ばれています。どうやって神の選びを知るのでしょうか。身近なところを振り返ってみたら分かります。幼い頃から、何となくキリスト教会にあこがれる思いを持っていたとか。もちろん、「あこがれ」だけで救われることはありませんが、「あこがれ」はキリストと出会う前段階として有効です。はっきりしていることは、もし私共が主イエス・キリストに心を開いたなら、神に選ばれているということです。なぜなら神は、**〈この方（＝キリスト）にあって私たちを選び、御前に聖なる、傷のない者にしようとされた〉**からです。神のご計画により、この方（＝キリスト）以外には、だれによっても罪からの救いはありません。天の下でこの御名のほかに、私たちが救われるべき名は人間に与えられていないからです（使4・12）。

三、選ばれた者がすること

再度お語りしますが、マリアが神に選ばれたように、キリストを信じる私たち一人びとりも、神に選ばれています。そして私共は、掛け替えのない、神の作品です。「作品」と言いましても、罪のゆえに様々な失敗があります。ですが、主イエス・キリストを信じるなら、その罪が赦されていることも事実です。罪の問題は、父・子・聖霊なるが解決してくださいました。ゆえに、キリストを信じた人は――まだ信じていない人もそうですが――、自分の内にある願いを大切にしていただきたいです。

私共が願うことは、とても不思議です。一人ひとり異なるからです。これを無視して、一つの基準で測り、例えば偏差値がどれくらいかで測ったりとか、仕事ができるか否かで測ったりとか、財をなすことができたか否かで勝ち組・負け組に分けたりとかしますと、不幸な社会ができてしまいます。大切なことは、その人の願いが実現して行くことです。ですが、「大金持ちになりたい」というのは、おそらく罪という、神から離れている人間の欲から来ることであって、それを追い求めても、本人はおろか、社会も良いかたちにならないでしょう。

そういうわけで、罪の問題が解決されて――それは救い主イエス・キリストを信じることです――願うなら、本人も周囲も、社会も良い方向に向かいます。